

CLIENT Interview

エフ・アイ・エス [複写サービス業]

FIS

DreamLabo 5000



DreamLabo 5000 は、複写・プリント業界が受注産業から価値を提案する側へとシフトする“イノベーション”を起こす、あらたな武器になる。

株式会社エフ・アイ・エスは、1961年に設立された朝香青写真を前身とする複写サービス会社です。時代の変化に即応すべく、各時代の先端技術にいち早く取り組み、常に質の高いドキュメントサービスを展開しています。

2017年1月、株式会社エフ・アイ・エスは、ハイクオリティ・オンデマンド印刷機として、DreamLabo 5000 を新たに導入。

さまざまなオンデマンド機を備えるなか、DreamLaboを導入したきっかけは何だったのでしょうか。株式会社エフ・アイ・エス 代表取締役朝香雅文さん、新規事業推進室 朝香貴裕さん、中込宏幸さんにお話を伺いました。

— 今回、DreamLaboを導入された理由を教えてください。

朝香雅文 ● 一番の理由は“新しい武器”を持つためです。私たちはこれまでカラーコピー機から始まり、オンデマンド印刷機の導入、バリエブル印刷の対応、液体トナータイプのデジタル印刷機と、常に新しい技術を導入してきました。しかし、いま、複写・プリント業界における技術的な進化は止まってしまっています。私たちエフ・アイ・エスだけでなく、業界全体を活気づけるためにも、なにか新しいことをやらねばならない。その“武器”となるのは、オンデマンドトナーでプリントされたものという認識を覆し、インクジェット方式でとにかく綺麗な画像がプリントできる DreamLaboしかない。それが導入を決めた理由です。

朝香貴裕 ● プリント需要が減っているというのは、複写・プリント業界だけでなく印刷業界でもよく耳にする話です。2016年には雑誌の販売が書籍を下回り、年賀状も2003年をピークに減る一方で、電子書籍やSNSのようなサービスは伸び続けており、“紙から電子”へという流れは確実に進行しています。

では本当に、紙の印刷物は減ったのかというと、実は伸びている分野もあるんですね、それがフォトブック市場です。2006年には10億円程度だった市場は2014年には10倍の100億円に達し、2015年以降も着実に伸び続けています。

従来は情報伝達の手段として“紙”が使われていましたが、情報伝達だけならいまや紙に頼る必要はありません。それでもなお、フォトブックのように印刷物としてかたちにしたいと思う人がいるのは、かたちにすることによって得られる付加価値がそこにあるからではないでしょうか。

DreamLaboならば、そうした“紙にする価値のあるもの”を作り出すことができるのではないかと考えています。

— DreamLaboの強みをどのような点に感じていますか。

朝香貴裕 ● 私たちが感じている強みは3つあります。1つめは「小ロット・超高品質」、2つめは「RGB・ディスプレイ品質」、3つめは「両面印刷」です。印画紙と同等以上の品質を1部からオンデマンドで出せるという手軽さと、ディスプレイで

見た色に限りなく近い色で見られる安心感。そして印画紙ではできなかった両面印刷できるからこそ、さまざまな印刷物として展開ができるようになります。

中込 ● プリプレスでのメリットもあります。弊社では4色・6色のデジタル印刷機も使用していますが、これまではRGBデータをCMYKにし、さらに出力機に合わせた調整をして、ようやくきれいなプリントを得るという流れでした。

DreamLaboでは撮ったままのRGBで、画面で見ている画像がそのままプリントできます。色も安定しているので、プリントにかかる手間とストレスを大幅に減らすことができるのは、プリプレスの現場にとって大きなメリットになっています。

sRGBとAdobeRGB、いずれにも対応しているのも、オフセット印刷、オンデマンド印刷にはない強みですね。

朝香貴裕 ● オンデマンド印刷は普及当初、小ロットに対応できるけれど品質はオフセットより下とされていました。しかしデジタル印刷が進化し、オフセット印刷との差が少なくなってくると今度は価格競争にならざるを得なくなりました。この点も複写・プリント業界に閉塞感が漂う理由のひとつになっています。

しかし、DreamLaboには従来のオンデマンドやオフセットには出せない圧倒的な品質がありますから、そうした価格競争にまきこまれることもありません。品質が高く、かつ小ロット、そのふたつが両立する部分に、潜在的な市場があるのでは

CLIENT Interview

DreamLabo 5000



『日本の紅葉』
写真：朝香雅文
仕様：W314×H295mm／上製本
用紙：光沢タイプ



『SHIZUTAKA PHOTOGRAPHY』
仕様：W210×H297mm／並製本
用紙：光沢タイプ



『INDIA SIBERIA MALAYSIA』
仕様：W297×H420mm／並製本
用紙：ラスタータイプ

ないかと考えています。

— 具体的にどのようなターゲットに対して、サービスを展開される予定なのでしょう。

朝香雅文 ● ひとつは写真館などのアルバム、もうひとつは趣味の分野での出力です。

写真館はいまではデジタルカメラで撮影していますし、ユーザーにとっても記念のものとなればできるだけいい色で出して欲しいと思うはずです。七五三や成人式のような記念写真は、アルバムと台紙がセットで数万円という相場がありますから、十分に勝負できると考えています。

趣味層については、私自身も写真家なので非常によくわかるのですが、“自分が好きなものをきれいに表現するためには出し惜しみをしない”という層が必ずいます。そうした人に DreamLabo のプリントを見せたら、たとえば値段が高くなろうとも買って頂けると考えています。

中込 ● 趣味の写真ひとつとっても、風景やポートレート、鉄道や飛行機などさまざまです。卒業・卒園アルバムも少子化のため、大ロットで作る機会はなくなってきました。こうした部分に大きな需要が見込めるのではないかと。

朝香貴裕 ● 写真家の方は特に私たちが想定していた以上に色にこだわりを持っていますよね。写真以外にもアニメやCGもRGBがそのまま出

せるメリットを活かせると考えています。映像系のクリエイターからはCMYKにすることで色が変わってしまうのが嫌だという声を聞きますが、DreamLaboならそうした心配がありません。妥協をしたくないクリエイターにピッタリだと思います。アニメや映画のモデルになった街を巡る“聖地巡礼”にあわせて、冊子やグッズを作るというのもしろいかもしれませんが。

朝香雅文 ● 実際にどのくらいの反応があるかはまだわかりませんが、この武器を手に入れたことによって、写真館、ラボ、式場、ホテル、写真家、カメラマン等々、これまでとは違ったお客さまにアプローチができるようになるのは大きなメリットですね。

— DreamLaboの導入によって、エフ・アイ・エスと複写・プリント業界はどのように変化すると思われますか。

朝香貴裕 ● これから取り組もうとしているのは、これまでの機材では到達しなかった領域です。機材と設備、そして技術とノウハウを持っている私たちだからこそ、チャレンジできる分野ではないかとも思います。そして、複写・プリント業界が川下の受注産業から新たな“価値の創造”を企画提案できる川上へとシフトする“イノベーション”を起こすきっかけになればと考えています。



左：DreamLaboはエフ・アイ・エスのデジタルプロダクションセンター（神奈川県横浜市）に導入されている。センター内にはプリプレスからプレス、ポストプレスの設備までひと通りを備える
右：工場内に用意された比較用プリントサンプル。DreamLaboだけでなく、4色・6色のデジタル印刷のサンプルも揃う



朝香 雅文
Masafumi Asaka
株式会社エフ・アイ・エス
代表取締役



朝香 貴裕
Takahiro Asaka
株式会社エフ・アイ・エス
新規事業推進室



中込 宏幸
Hiroyuki Nakagomi
株式会社エフ・アイ・エス
新規事業推進室

株式会社エフ・アイ・エス／東京都品川区。1961年、朝香青写真として創業。複写やドキュメントサービスを中心に業務を拡大し、1982年、株式会社エフ・アイ・エスを設立。オンデマンドカラー・モノクロ／印刷、大型カラープリント、データ加工、スキャン、各種印刷、各種製本サービス、名刺、カード、POP、会社案内の企画制作、Web to Print 等、幅広いサービスでビジネスをサポートする。